

高岡 信行

しっかりこなす+考える
仕事です



毎月、緊張感の中で…

「総務省が〇日発表した労働力調査によると、△月の完全失業率は…」このような報道を皆さんも見聞きしたことがあると思います。私は、その労働力調査の公表を担当しています。統計業務は、調査の企画・設計に始まり、記入していただいた調査票の回収、各種集計の行程を経てようやく公表を迎えます。私の仕事は、野球の投手継投に例えるなら、クローザー（抑え）という役割になるでしょうか。ミスなく最後を締めて当たり前というプレッシャーがありますが、その分無事公表を終えた後には充実感（≒安堵感）を覚えます。

単調ではないのが魅力

「ん？統計業務なんて、ルーティーンの単調作業でしょ？」と思われるかもしれませんが、そんなことはありません！毎月の調査でも考えるべきこと、工夫の余地はたくさんあります。例えば…

- ①毎月、数値の変動要因を、背景にある社会要因、関連データ等を総合して考えます。
- ②ウェブサイトの構成、注釈の記述、より合理的なチェック方法…日々改善を意識・実践することは必要であり、楽しみでもあります。
- ③時代の要請（産業分類改定、ILO 決議など）により結果表を変更します。
- ④多くの尊い命が犠牲になった東日本大震災…労働力調査では、2011年3～8月の全国集計ができなくなり、代替として岩手、宮城、福島県の3県を除く結果を公表しました。

など取り組みは様々です。野球の打席に例えるなら、次々と投げ込まれる変化球を打ち返しているようです。先人の知恵継承だけではなく、新たな変化を把握し過去にとらわれない/例のない対応を迫られているのです。これらに対して、皆で考え、コツコツ進めていくところに醍醐味があります。

社会へ数字でメッセージを送りませんか？

統計は、客観的な定量情報を提供することで社会にメッセージを送っています。その数字は、政策立案に活かされ、将来まで残ります。野球の試合運営に例えるなら、実況・解説と公式記録員の役割を担っているのです。（…と、さも立派に仕事をしてそうに聞こえたかもしれませんが）まだまだ自分の至らなさを感じます。でも、上司や同僚、後輩から学び一緒に仕事をしていける職場です。総務省の業務に興味を持たれた方は、ぜひ一緒に仕事をしませんか？

PROFILE

平成13年10月 総務省採用
統計局総務課
企画調整係

平成19年4月 統計局統計調査部
消費統計課物価統計室
物価指数第一係

平成20年4月 統計局統計調査部
消費統計課
物価統計室物価指数
第二係長

平成22年4月 統計局統計調査部
国勢統計課労働力
人口統計室統計専門職

平成20年7月 現職

とある一週間

月曜日

翌週ウェブサイト掲載の文章を上りと詰める。また同時掲載の加工データを作成していると…国会議員さんからの資料要求が飛び込む。

火曜日

室内会議で進捗報告し、今後の検討事項やスケジュールを再確認。また月末に使う審査用ファイルを準備（今月は特殊対応多し…）。

水曜日

集計に関する依頼を関係者へ送付。優秀で気が利くプログラマさんにはいつも助けられています（感謝!）。

木曜日

ウェブサイト掲載資料の幹部了解を得て一安心。後回しにしていた他府省からのデータ確認依頼に回答。

金曜日

都道府県の方との会議に一部出席。見事に仕切る先輩を見習いたいものです。

土・日曜日

家族で買い物へ行く途中、鳴いた鳥の名前クイズを子供に出題。望遠鏡を使う本格的なバードウォッチング復活の機会をうかがっています。



近所の歩道にて